

SDGs未来都市等進捗評価シート

2020年度選定

熊本県水俣市

2021年8月

SDGs未来都市計画名

自治体SDGsモデル事業
又は特に注力する先導的取組

水俣市 SDGs 未来都市計画

～みんなが幸せを感じ、笑顔あふれる元気なまちづくり～

-

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

水俣市 SDGs 未来都市計画 ～みんなが幸せを感じ、笑顔あふれる元気なまちづくり～

(2) 2030年のあるべき姿

第6次水俣市総合計画における目指す将来像「みんなが幸せを感じ 笑顔あふれる元気なまち 水俣」

2019年、本市においては、2026年を目標年次とする「第6次水俣市総合計画」を策定した。総合計画を策定するに当たっては、SDGsの理念に基づいて地域経営を進めることを想定していたため、目指す将来像に、そのコンセプトを反映させている。

将来像の、「みんなが幸せを感じ」は、誰1人取り残さない、「笑顔あふれる元気なまち」は、経済・社会・環境が元気で、そこに住む人たちは笑顔である、という意味を持つ。

(3) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた優先的なゴール



(4) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2020年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	市内総生産 【2.3,8.1,8.2,8.3,8.9,9.5,11.2】	2016年 849 億円	2018年 838 億円	2026年 872 億円	-47.8%
2	事業者による新商品・新技術開発件数（累計） 【2.3,8.1,8.2,8.3,8.9,9.5,11.2】	2018年度 1 件	2020年度 1 件	2026年 7 件	0%
3	観光入込客数（宿泊者数） 【2.3,8.1,8.2,8.3,8.9,9.5,11.2】	2018年度 81,758 人	2020年度 52,779 人	2026年 91,000 人	-314%
4	次世代育成事業参加者数（累計）【4.4】	2018年度 854 人	2020年度 2,453 人	2026年 9,000 人	19.6%
5	子育て支援サービスが充実し、子育てしやすい環境だと感じる保護者の割合【4.4,5.4,17.17】	2017年 10.9 %	2017年以降調査未実施	2026年 50.0 %	-
6	3大死因による死亡者の割合【3.2,3.4,4.1,4.2】	2018年度 46.2 %	2020年度 43.6 %	2026年 45.0 %	217%
7	市全体の温室効果ガス排出量の削減率（2005年を基準年とする。）【7.2】	2017年度 34.0 %	2018年度 39.3 %	2026年 36.8 %	189%
8	リサイクル率【12.5,17.17】	2018年度 39.4 %	2020年度 37.0 %	2026年 48.0 %	-28%
9	海と川のクリーンアップ作戦参加者数【14.1,17.17】	2018年度 823 人	2019年度は台風、2020年度はコロナにより中止	2026年 1,000 人	-

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

（5）「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

3大死因による死亡者の割合については、これまで実施してきた集団検診及び個別検診（胃がん・子宮頸がん・乳がん検診）や、その他の健康増進施策により目標を達成することができた。令和2年度から、胃内視鏡検査による胃がん検診や、子宮頸がん及び乳がんの検診対象年齢を拡大するなど、更なる疾病の早期発見を図っているところ。

リサイクル率については、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、飲食店への時短営業要請や、企業の出勤抑制等が行われたことにより、事業系一般廃棄物（もえるごみ、生ごみ等）の排出量が減少したことにより、市全体のごみ総量は約180 t 減少したが、家庭から排出される粗大・不燃ごみ（リサイクル不可能）の排出量が約100 t 増加したことにより、リサイクル率が低下したと考えている。（リサイクル可能・不可能含むすべてのごみ排出量は約180 t 減少したが、リサイクル不可能なごみの排出量が例年より約100 t 増加したことによるリサイクル率の低下）

情報発信の取組として、本市HPにおいてSDGs ページを設置し、個人でできるSDGs の取組を紹介するとともに、本市のSDGs 未来都市計画を掲載し、市内外へ本市の目指す姿を発信している。また、水保環境アカデミアにおいて、SDGs に関連した市民公開講座を3回開催した。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2022年目標値	達成度(%)
1	活力ある地場企業づくり	事業者による新商品・新技術開発件数（累計）	2018年度 1 件			2020年度 1 件	2022年 4 件	0%
2	地域資源を活かした観光の振興	観光入込客数（宿泊者数）	2018年度 81,758 人			2020年度 52,779 人	2022年 91,000 人	-314%
3	地産地消と“みなまたブランド”づくり	中山間地での作物導入数	2018年度 0 品目			2020年度 2 品目	2022年 2 品目	100%
4	豊かな心で未来に挑戦する人づくり	スポーツキッズサポーター関連事業実施数	2018年度 1 事業			2020年度 2 事業	2022年 3 事業	50%
5	地域を担う人材の育成	水俣環境アカデミアによる研修受入事業数（累計）	2018年度 28 事業			2020年度 62 事業	2022年 130 事業	33%
6	元気に老い、いきいきと生きがいのあるまちづくり	通いの場（まちかど健康塾、もやい・ふれあい菜園）参加者数	2018年度 685 人			2020年度 720 人	2022年 924 人	15%
7	地域における温室効果ガス排出量の削減	市全体の温室効果ガス排出量の削減率（2005年を基準年とする。）	2017年度 34.0 %			2018年度 39.3 %	2022年 35.0 %	530%
8	ごみの分別的成果と減量	リサイクル率	2018年度 39.4 %			2020年度 36.9 %	2022年 45.0 %	-45%
9	協働による環境保全活動の推進	海と川のクリーンアップ作戦参加者数	2018年度 823 人			2020年度は中止	2022年 1000 人	-

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

昨年度、熊本県、県内SDGs未来都市（熊本市、小国町、本市）及びSDGsに知見のある県内企業で構成する「熊本県SDGs登録制度検討会」において、「熊本県SDGs登録制度」の創設に向け検討を重ね、今年1月に熊本県を主体に制度を創設した。今後は「熊本県SDGs登録制度推進プロジェクトチーム」の一員として制度の推進を図るほか、登録事業者への伴走支援等について検討していく。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

観光入込客数については、新型コロナウイルス感染症の感染防止のための外出自粛による影響を受け、基準年を大きく下回る数値となったものの、国の交付金を活用した宿泊助成事業などを効果的に実施したことによって、影響を最小限にとどめることができた（宿泊者数前年比：全国平均51.1%、県平均59.8%、本市平均70%※速報値）。しかし、県内でのさらなる感染拡大により市内宿泊施設の経営状況はひっ迫しているため、引き続き感染症の状況を見極めながら観光客の誘客や効果的なPRを行い、観光入込客の呼び込みを図っていく。

リサイクル率については、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、飲食店への時短営業要請や、企業の出勤抑制等が行われたことにより、事業系一般廃棄物（もえるごみ、生ごみ等）の排出量が減少したことにより、市全体のごみ総量は約180 t 減少したが、家庭から排出される粗大・不燃ごみ（リサイクル不可能）の排出量が約100 t 増加したことにより、リサイクル率が低下したと考えている。【再掲】

提案時のモデル事業については、「環境ビジネスにおける企業立地」が2020年度において2件あり、2022年度までに1件としていた目標を達成したほか、湯の児海水浴場におけるマリンアクティビティの拠点づくりに、民間と協働で取り組んでいる。

また、市施設へ、地元企業が所有する水力発電所由来の電力の導入を開始（2020年時点で15施設）し、年間約219 t の温室効果ガスの削減に寄与している。

(4) 有識者からの取組に対する評価

- ・水保環境アカデミアの受講者がどのように地域を担う人材となるのかを示すことを期待する。
- ・三大死因による死亡者割合減少、市内の技術開発、リサイクル率等、これまでも水保市で取り組んでいる事業であり、SDGsとして各目標の相乗的な効果にどのようにつなげるか検討を期待する。